学習効果を高めるための教育機器、交通安全教育プログラムを開発

シミュレーターの機能拡充と活用拡大

Hondaは、交通安全の教育効果をより高めるために、教育機器の開発や教育プログラムの開発に取り組んできました。

シミュレーターは、危険予測力を高めるための重要な教育機器です。今年は、ライディングシミュレーターのマイナーモデルチェンジを行い、新たに「危険場面解説機能」などを開発し、受講者の認知・判断力をさらに向上できるようにしました。

自転車シミュレーターは、交通ルールとマナーをわかりやすく伝え、さらに危険予測力を高めることを目的に開発を進めています。シミュレーターは少人数での活用が基本ですが、さまざまな教育現場で検証を重ね、集合教育における効果的な活用方法の研究を行っています。

教え込む教育から気づく教育へ

Hondaが開発した四輪・二輪運転者のための参加体験型教育プログラムは、今日では広く日本のドライバー教育の中で実施されています。

近年力を入れているのは、気づきを促し、交通行動を変える座学の教育プログラムです。

四輪版動画KYT（06年）※1は、シミュレーターと同じ臨場感のある映像で交通状況を動画で再現し、ドライバーの危険予測力を高めるトレーニングで、コーチング手法※2を取り入れて効果を上げています。今年開発した二輪版動画KYTは、四輪版と同様、企業の交通安全教育での活用が期待されています。

地域の歩行者、自転車の交通安全で活用が進む「あやとりぃ」

Hondaは、幼児から高齢者まで、生涯教育に使われる自転車や歩行者対象の教育プログラムも開発し、地域に根ざした交通安全活動に活用されています。

三重県鈴鹿市の協力を得て安全運転普及本部の鈴鹿モビリティ研究会が開発し、作成した「あやとりぃ」シリーズは、幼児や児童、高齢者を対象にした参加体験型の交通安全教育プログラムです。三重県、岐阜県の小学校、幼稚園、老人会、警察署などと連携して、地域の交通安全教育に活用されています。

今年は、このプログラムに関心を持った北海道、埼玉県、熊本県などの自治体や小学校の要望に応えて、指導者研修や授業を実施しました。

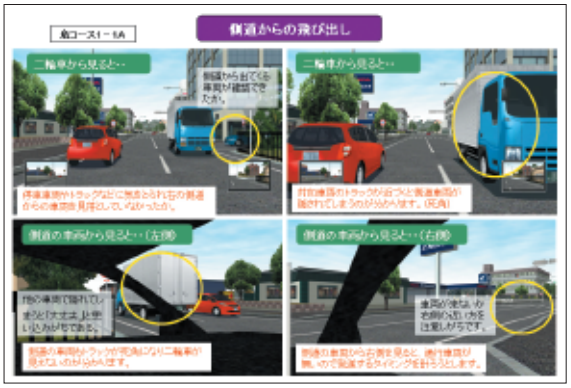
また、将来幼稚園の先生を目指す岡山県や愛知県の大学生を対象に、幼児向けの「あやとりぃ　ひよこ編」の指導法研修も交通教育センターで行いました。

「あやとりぃ」シリーズの受講者は年間約10万人※3。「あやとりぃ」は、地域に密着した交通安全活動の中で着実に広がっています。とくに小学3、4年生を対象にした「あやとりぃ」は、より多くの方にご活用いただけるよう、指導方法の改訂や内容の充実を進めています。

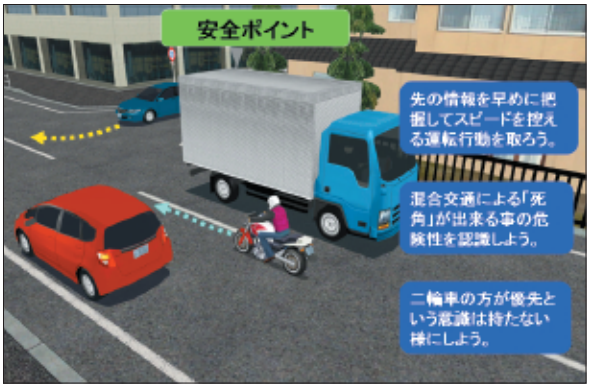
※1 危険を予測するトレーニングの略称。危険のK、予測のY、トレーニングのTで作られた略称
※2 相手の中にあるリソース（知識、経験、考え）を指導者が望ましい方向に引き出すことにより、自ら課題を解決させようとする手法
※3 交通安全キャラバンの実績を含む

ライディングシミュレーター

ライディングシミュレーター



解説画面



アドバイス画面

「危険場面解説機能」は、ライダーがどのように危険状況をとらえ、どのように対応すれば安全を確保できるか、具体的なポイントを画像とコメントでわかりやすく示します。

自転車シミュレーター

集合教育ができる教育手法を研究しています。

二輪版動画KYT

危険を感じた箇所で「危険予測ボタン」を押し、そこでどういう危険を感じたか、危険を招かないためにどうすればいいか、話し合いながら危険予測力を高める、コーチング手法を活用した参加型トレーニングです。

交通安全教育プログラム「あやとりぃ」

北海道斜里大谷幼稚園で行われた「あやとりぃ ひよこ編」。

北海道斜里郡三町の高齢者等交通安全大会で「あやとりぃ 長寿編」を紹介しました。

岡山短期大学幼児教育学科の学生が「あやとりぃ ひよこ編」の指導法を学びました。